

熊野古道エコツアーリズム

『観音信仰の心を辿る』 ～泊観音の今昔～

■実施日：平成20年4月19日(土)

■定員(参加者)：8名

観音信仰の道として世界遺産登録されている熊野古道・観音道。観音信仰が盛んだった頃、この道を登ったところには近郷近在の人々に篤く信仰された、「泊観音」(比音山清水寺)と呼ばれるお堂がありました。



案内役の向井さん

この講座は、かつて観音様に拠り所を求めた先人の心にふれることを目的に開催いたしました。

案内役は三重・紀南エコツアーリズムガイドの向井弘晏さん。向井さんは観音道をいつも見守っている方で、ボランティアで道の補修や道中の観音様に花を捧げておられます。また天気が荒れた翌日には必ず道の様子を見に行き、参詣する方々が安全に歩けるように注意をはらってくださる信念のある方です。

まず泊観音まで参詣できない人々のために麓の旧家に安置されている、「口観音」といわれる観音様(千手観音坐像)を今回特別に拝観させていただきました。



口観音(千手観音坐像)

大変やさしい顔をされたこの観音様は、観音別当を務めた初代の方から大切に守られ、十三代目にあたる現在の当主の旧家に安置されています。

清泰寺に到着。

この後向かう泊観音堂は終戦を境に参詣する人が少なくなりました。そして無住となり一部荒廃したため、泊観音(千手観音立像)はこのお寺に客仏として安置されています。



泊観音(千手観音立像) 観音さんはなぜ親しまれるのか。観音さんは現世利益をもたらしてくれる。今の苦しみを救ってくれる。身分の高い低いも関係なく、一般の人たちにも優しい仏様である。」と語り、泊観音に拠り所を求めた昔の人たちの思いについて思いを巡らせました。

向井さんから、昭和39年に清泰寺に安置された泊観音について、その経緯と観音様について話がありました。



清泰寺を出発し、西国三十三所にちなんで信者たちが寄進した参詣道脇の三十三体の観音様を巡りながら観音道を歩き、泊観音堂へと向かいました。



到着した泊観音堂は現在一部が崩壊しています。しかし、向井さんはこう語りました。

「昔、泊観音へ救いを求めてきた頃のように、参詣者がこの道を登り、手を合わせて拝める場所にしたいと思っている。」

以上(記録:森倉)